

第5回これからの図書館サービスのあり方懇談会 会議要録

- 1 日時 平成24年12月5日(水)午後4時～午後5時
- 2 場所 練馬区役所本庁舎19階 1902会議室
- 3 出席者 漆澤座長、小野副座長、関委員、高原委員、下山委員、高木委員、鈴木委員、高橋(司)委員、植松委員、小林委員、高橋(真)委員、吉岡委員
- 4 事務局 光が丘図書館長(事務局長)、光が丘図書館管理係長、同事業統括係長、同子供事業統括係長、他光が丘図書館職員7名
- 5 公開の可否 公開
- 6 傍聴者数 6名
- 7 議事等
 - (1) 議事
答申文の検討(決定)
 - (2) その他
- 8 配付資料
 - (1) 第4回懇談会「議論のポイント」
 - (2) これからの図書館サービスのあり方(案)

9 会議の概要

座長

それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

本日も、ご多忙の中、第5回これからの図書館サービスのあり方懇談会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日が最後の懇談会でございます。どうぞよろしく願いいたします。

議事に入ります前に、11月8日に開催されました第4回懇談会の会議要録(案)が、過日、皆様方のお手元に配付されたかと思いますが、こちらでよろしいでしょうか。

<了承>

それでは、お手元に届いております会議要録(案)を、第4回これからの図書館サービスのあり方懇談会の会議要録として、準備が整い次第、練馬区ホームページ等で公開するようにいたします。

それでは、これより議事に入りたいと思います。

本日は、この懇談会の教育長への答申文についての検討です。

日程等の関係から、本日、答申文の決定をいただきたく、ご協力を何とぞよろしく願いいたします。

それでは、事務局から資料の確認をお願いします。

事務局

まずは「次第」です。続きまして「第4回懇談会『議論のポイント』」、次に「これからの図書館サービスのあり方(案)」、資料はこの2点でございます。

座長

それでは、議事を進めていきたいと思います。
資料の説明を事務局からお願いいたします。

事務局長

はじめに、第4回懇談会「議論のポイント」でございます。

次に、答申にかかる各委員の皆様からの様々なご意見を踏まえ、最終的に作成した答申案でございます。

この間、委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、日程にご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。本日、このような形で提出させていただきました。

この答申案につきまして、事務局職員が読み上げさせていただきます。

<これからの図書館サービスのあり方 答申案の読み上げ>

座長

ありがとうございました。

最初にも申し上げましたように、本日は答申文の決定に向けた検討となります。皆様方、何とぞご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、各委員の皆様方から、順番に、この答申文（案）へのご意見やご感想をいただき、最後に決定の運びとさせていただきたくと思いますが、いかがでしょうか。

<異議なし>

それでは、そのように進めさせていただきたいと思います。

では、恐縮ですが、座席の順にご発言を一言ずつお願いしたいと思います。

委員

皆様とともに今日まで意見を重ね、懇談を重ねて、この答申に結実したことを本当に一緒に喜びたいと思います。

重箱の隅をつつけば、いろいろと文言についてはございますが、私は、この答申文は、座長のご努力を含めて大変結構だと思います。

ただ、一つ、別冊についてのご説明を事務局から伺いたいというふうに思いますが。

この答申は非常に簡潔、抽象的ですので、別冊に懇談会の要録と意見シート、それから資料をとということで、それを教育長につぶさに読んでいただくことを期待して、終わりたいと思います。

座長

ありがとうございました。それでは、事務局からお願いします。

事務局長

懇談会のご意見の中にもありましたので、別冊につきましては、教育長にお渡しする準備をさせていただいております。

座長

それでは、次の委員、お願いいたします。

委員

これだけいろいろな分野の方が集まって検討した中で、ここまで事務局でまとめたただくには相当な苦勞があったことと思い、まず、それに感謝申し上げたいと思っています。

それから、かかわった者の一人として、今後これをどう展開されていくのか、それを見ていくのを楽しみにするとともに、10年もたないで見直しが出てくるのではないかと

いう、そのところは懸念もしています。

ただ、この答申にも出ているように、何らかの形でまた話し合える機会がどこかであるとしたら、また、お話しさせていただけるのを楽しみにしております。

座長

ありがとうございます。

それでは、次の委員、お願いいたします。

委員

本当に立場、立場でいろいろなことを申し上げたと思いますが、それを本当に苦労してまとめてくださっていて、感心いたしました。

この答申案を、今度は汲みとって実現させるのは大変でしょうけれども、そのためにも、私たちがこれから関心を持って見守ることと、サポーターズ組織なりを作って、できることは一緒に働かせていただきたい、そういうふうに思います。

座長

ありがとうございました。

次の委員、お願いいたします。

委員

二つの片仮名について、少し気になります。「図書館のインフォメーション機能（アドバイザー）」というところ、「アドバイザー」ではなくて、「水先案内」と言った方がより分かりやすいと思うのです。

そして、サポーターズ組織といっているのに、「友の会」といったら、ただの集合、群れという、そういうイメージの方が強まってきて、それが図書館を運営、管理する方から考えたら、一種の圧力機関と感しないかとか。

そして、「友の会」の意見を反映したということで、アリバイ証明のようなことも出てくるので、「（友の会）」と書かずに、「サポーターズ組織」だけでさらっと表現している方がいいと感じました。以上です。

座長

ただいまご指摘をいただいたところは、答申案の5ページの（1）のイの部分に「インフォメーション機能（アドバイザー）」という言葉があります。

また、（2）区民と地域との協働・協力に向けた事業展開のアの部分に「サポーターズ組織（友の会等）」というところがあります。

6ページの（4）図書館の資料や人材などを活用した事業展開のイの部分にも「サポーターズ組織（友の会等）」というところが出ております。

もう一か所ありますか。3ページの部分のイ区民や地域との協働・協力に向けた事業展開、（ア）区民や地域との協働の二つ目のところにも、「サポーターズ組織（友の会等）」という言葉がありますが、こちらにつきましては、どのような形で対応してまいりましょうか。事務局で補足があればお願いしたいと思います。

事務局長

まず、前後いたしますが、「サポーターズ組織（友の会等）」について、どういったイメージかということで、懇談会の中でも、他区の事例などで「友の会」というような名称が使われていることが多いということでした。それで、そういった表現を入れておいた方が、より分かりやすいのではないかというご意見を踏まえて、このように表記させていただいたところでございます。

それから、「圧力」というような言葉もありましたが、そうではなくて、サポーター

という位置づけで、図書館運営にご協力いただける組織であって、ご意見をいただいて、ご協力もいただき、事業運営を一緒にやるというような、そういう意味合いも大きく捉えて、このような表記にさせていただきましたので、このままでお願いできればと考えております。

それから、「インフォメーション機能」というところで、これもかなりご意見があった部分ではございますが、それぞれのご意見の方向性というのは、まさに「水先案内人」であったり、「相談員」であったり、あらゆることに精通した、そうした人的な配置が求められるというところになっていたかと捉えております。

そうしたことから、「アドバイザー」という表現で、インフォメーション機能だけではなくアドバイザー、相談員のようなものということで記載させていただいたところでございます。もちろんこの表現について修正することも可能ではございます。その点について、皆様からご意見をいただければと思っております。

座長

ありがとうございます。今の事務局のお話ですと、「友の会」だとか「アドバイザー」であるという言葉の実態は、先程の委員がイメージされていることとほぼ同じではないかというふうに考えます。この点につきましては、運営していく段階で配慮するというので、文言はこのままで本日は決定という形にさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員

先程の委員のご意見を聞いて、確かに「アドバイス」というのは立ち入り過ぎるという面も感じられますので、水先案内人ということであれば「ナビゲーター」というのはどうでしょうか。

委員

なるほど「ナビゲーター」ですか。私たちも、玄関を通過してきたときにインフォメーションを通過していますが、あの人たちは場所とかを言うだけですしね。

事務局長

「(アドバイザー)」と表記したことでご議論が広がってしまったかと思えます。元々はインフォメーション機能ということであったかと思えますので、もし、そこでの議論になるのであれば、括弧の部分を除いてもよいかと思えますがいかがでしょうか。

委員

括弧を取って「・」で併記にしたらいいのではないですか。

事務局長

「インフォメーション機能・ナビゲーター」ということでしょうか。

座長

皆様、いかがでしょうか。

委員

「ナビゲーター」でも「アドバイザー」でも、併記であればいいと思います。括弧だと限定されるような感じがするので。

委員

敷居を低くしなければならぬ図書館が、あまり横文字を使うというのもどうかとは

思います。

委員

曖昧模糊としているあたりで、その方がイメージしやすいのかもしれませんが。

委員

片仮名言葉がいいかどうか分かりませんが、「アドバイザー」にしても「ナビゲーター」にしても、目的があって、その参考なのです。

そうではなくて、目的も何もない人が来て、どうしようということが多いわけですから、それだったらホテルなどの「コンシェルジュ」みたいな方がいいのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

委員

ここまできて末節ですよ。こんなところで枝葉の議論をやっていたら、最後の答申までいきません。

当然議事録が出るわけで、今日の議事録も教育長の目にとまるわけですから、原案どおり進めればよいと思います。

元々片仮名の問題については、ご参考にといっては何ですが、介護保険制度が発足したときに、当時の厚生省がやたらと片仮名を使って、早い話が「ケアマネ」とか、どんどんあそこで片仮名を使って、その後今度は国語審議会でも、余りにも日本語がおかしくなってきたということで、片仮名の自粛・見直しという議論までやって、途中でその議論は打ち切りになったのですが、片仮名というのは土台無理なのです。

英語の辞書を引いても何通りも解釈が出てくるのだから。片仮名議論をあまりやっても意味がないので前に進めましょう。

座長

そうしましたら、事務局（案）として、この「アドバイザー」の部分を削除するという案もいただいたのですが、原案どおりということによろしいでしょうか。

委員

原案どおりで結構です。

座長

では、原案どおりとさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、答申文につきましてのご意見、ご感想ということで、次の委員、お願いいたします。

委員

私自身は、小学生の母として、または小学校PTA 連合協議会の役員として、どうしても、子どもたちと図書館という観点から今回の会に臨ませていただきました。そして、私の狭い認識からお話しさせていただきましたが、結果として、本当に皆様のいろいろな意見を頂戴して、ここまで内容の濃い形になってきたことに大変感謝しております。ありがとうございました。

座長

ありがとうございました。続きまして、次の委員、お願いいたします。

委員

座長、副座長、それから事務局の方、本当にご苦労様でした。ここまで、よく短期間

でまとめてくださって。

とはいうものの、残念ながら恐らく3年もたないでしょう。それ位、今の世の中の進歩が早いというのが現実です。

今日の時点では、この答申ということで教育長にご理解いただいて、5年後の見直しではなく、恐らく3年後の見直し、それ位のスピードだというふうに私は感じます。

ですから、今日の時点では、「本当に、皆様ご苦労さまでした」というお礼を申し上げて、感想としたいと思います。

座長

ありがとうございました。次の委員、お願いいたします。

委員

全5回の短い会議でしたけれども、普段これほど図書館について考えることはなかったのが、お誘いいただいて他の図書館に見学に行ったりとか、いろいろな経験もあってすごく有意義だったと思います。

前回出席できなかったので、この答申文について1点疑問点というか、気になることがあります。この答申の全部の項目で「 が必要である。」というコメントになっていますが、「必要である。」という表現で、ここまで断定してしまっているのかなという気がします。

実際に、文章的にすごく不自然なところもあるのですが、6ページの上の(4)の片仮名のイ、2行目からです。「目的別に組織をつくり活動できることが望ましいと考えます。図書館は各種事業とサポーターズ組織をマッチングさせ、これを実施する役割になることが必要です。」とありますが、「望ましい。」ものが「必要です。」というのは、これは根本的におかしい気がします。法律関係に携わるもので気になるのですが、これは枝葉末節ですか。その点だけご審議いただければと思います。

座長

事務局から補足があればお願いします。

事務局長

皆様の思いといたしますか、言いたいことを、「必要です。」という表現にしたところではあります。

委員

「必要です。」というより、「望ましいと考えます。」という方が答申という感じがするのですが、いかがでしょうか。

事務局長

そうしますと、全体を通して修正をとということでしょうか。

委員

全体を読んでいて、「必要です。」と言い切っているなと思ったのは6ページの最後の(5)で「中央図書館が必要です。」というのと、懇談会をまた設けるべきだという点、この2点は「必要です。」と言ってもいいと思います。あとは全部「望ましい。」の方がいいのではないのでしょうか。

事務局長

答申文案については、これまで委員の皆様と何回かやりとりをさせていただいた上で、本日お示したところでございますが、皆様のご意見がそのように修正をとということで

あれば、対応させていただきたいと思います。

座長

ありがとうございます。日本語的に不自然なところもあるということですが、本日は最終案ということもありがとうございます。文意が変わるものではないということで、修正せずにこのままの形でご理解いただければと思いますが、皆様いかがでしょうか。

<了承>

ありがとうございます。それでは、次の委員、お願いいたします。

委員

毎回、楽しく参加させていただきました。今回話された四つの柱の中で、特に学校および子育て家庭の支援は、5年、3年と言わず、子どもはどんどん大きくなっていきますので、スピードのある動きを期待します。以上です。

座長

ありがとうございました。それでは、次の委員、お願いします。

委員

このたびは、このような素晴らしい答申にまとめていただき、ただひたすら感心した次第です。先程、むすびのところを読んでいただいた際には、むしろ感動さえしてしまいました。ありがとうございました。言い回しについてはいろいろあるにせよ、まとめは素晴らしいと感じました。

私は学校図書館司書という立場で参加させていただいたので、学校に関するところで多く発言させていただきました。この懇談会の趣旨や答申自体に直接的にはかかわりのない部分もありましたが、学校図書館や学校司書について、今まで発表する場、皆さんに知っていただく場が全くなかったので、そういった意味で発言する機会をいただき、大変ありがたく思っております。

また、一言だけ申し上げたいのですが、先日送られてきたご意見シートの「学校および子育て家庭への支援に向けた事業展開」のところ、赤色の修正がたくさん入っていましたが、答申文はこのような形でいくのだろうと思いました。

趣旨と外れるとか、学校支援センターはまた別の機会にという意見もありますが、図書館を主体として、学校図書館司書を支援員として派遣するという、図書館サービスという面で、学校司書とつなげて考えることも必要だと思います。

ただ、根本的な部分として、図書館から教育現場に人を派遣していいものかどうかという議論も必要だと思うのです。

以前、ご意見シートに、この懇談会はそれを議論する場ではないと思いますので、学校図書館や学校図書館の人の配置の件、学校司書の件、司書教諭や図書館との連携の件などについて、皆さんに多く知ってもらう場、それから意見交換をする場として、この懇談会のような場があればいいのではないかと、ということを書きましたが、この場をお借りして、また改めて一つ意見として発言させていただきました。

それから、答申の方に関してですが、こういう会議に参加していると周りに話しますと、「では、それは、いつ実現するの」、「いつからやれるの」、「いつ、どうなるの」、「すぐできるの」ということをたくさん聞かれるのです。

区民の関心は、こういった意見がいつ反映されるかというところが一番大きいと思いますので、この会議もスピーディに進みましたように、先ほど皆さんがおっしゃっているように、実際の計画、それからスピーディに実現されることを望んでおります。

座長

ありがとうございました。では、次の委員、お願いいたします。

委員

館長を初め、座長、副座長、本当に皆様、お疲れ様でございました。

私は、一母親の立場から出させていただきましたので、経験、知識豊富な皆様の話が聞けただけで、私自身本当に学ばせていただきました。ありがとうございました。

学校司書の方のお話を聞くと、地域の図書館と学校図書館の連携ということも、実現性があるのかなと思ったりしますが、ただ単に私などの知識がないだけで、こうやって教えていただければ、子どもたちのために何か多くのことができるのではないのかなということに、非常に気付かせていただきました。

私も、周りの方に「実は、練馬区の図書館を考えています。」みたいなことを話すのですが、逆に、ここで本当に皆様から教わったこと、練馬区の図書館はこんなにいいサービスをしているし、学校の図書館とか練馬区の図書館を使ってみると、本当に様々な知識を得ることができるのですよということ、少しずつでもアピールしていきたいなと思いました。

あとは、スピーディな実現を私も望んでおります。本当にありがとうございました。

座長

それでは最後に、副座長から答申文へのご意見をいただければと思います。

副座長

あまり議論する時間がなかったのですが、区民意識意向調査の結果を見ますと、いろいろと驚くようなデータが出ていまして、例えば、区民意識意向調査の参考資料として、練馬区の人口比率を出していただいたのですが、これを見ますと、30代、40代が、成人の人口の37%ぐらいを占めるのです。その人たちが、近くに図書館がないとか、資料がないという声を上げているのです。

いろいろやらなければならない問題があるのだと思うのですが、30代、40代の、いわば駆動部、エンジン部の人たち、しかもその人たちは就職氷河期に当たっている方がかなりいると思うのです。

図書館としても、いろいろな形で支援をしていければいいのではないかと思います、資料の充実などは、5年先、10年先ではなくて、できるだけ早く実現していただきたいと思います。

その他にも、例えば図書館でボランティアをしたい、おはなし会に参加したいという声を聞くのですが、どこにどう連絡したらいいのか分からない、どうやって実現したらいいのか分からないという声も多く聞きます。

例えば、メルマガなどでボランティアを募集するとか、ボランティア向けの講習の案内をすとか、この答申にはとても良いアイデアがたくさんあると思うので、できるだけ早く実現して、素敵な図書館になってほしいと思います。

座長

各委員の皆様方、そして副座長、ご発言いただきまして、ありがとうございました。

本日も、議論の絶えない懇談会になりまして、皆様方の図書館に対する熱い、熱い思いを改めて感じるところでございます。

答申文の最後にありますが、今後、この答申を踏まえ、練馬区の図書館にふさわしい「練馬区立図書館ビジョン」が策定され、それに基づき施策が展開されていく中で、地域住民に役立ち、頼りにされ、愛される図書館の姿を実現されることを座長として強く望むものという形で、むすびに添えさせていただきました。

委員の皆様方も含めまして、同じ気持ちであるということ、改めて思った次第です。

それでは、この答申案を、これからの図書館サービスのあり方懇談会の答申として決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

< 異議なし >

ありがとうございました。それでは、この答申案を本懇談会の答申として決定いたします。

それでは、議事を先に進めさせていただきます。

議事2、その他に入りたいと思います。事務局から何かございますでしょうか。

事務局

本日の懇談会の会議録につきまして、説明させていただきます。

本日は最後の懇談会でございますので、会議要録の確認は、郵送で各委員の皆様へ会議要録（案）を送らせていただき、修正のご指摘がある場合は、事務局にて修正を加えさせていただきますたく存じます。

年末年始の大変ご多忙な時期となり、委員の皆様方にはご負担をおかけすることになり、誠に恐縮でございますがよろしくお願い申し上げます。

座長

ありがとうございました。事務局から以上のようなお話がありましたが、よろしいでしょうか。

< 了承 >

そのほか、委員の皆様から何かございますでしょうか。

委員

いよいよビジョンがつけられるわけですけれども、どういうメンバーの方がビジョン作成にかかわられるのか、そしていつごろ出来上がるのかを、ぜひ伺いたいと思います。

事務局長

本日、答申を教育長にいただきますが、庁内に「これからの図書館サービスのあり方策定委員会」という会議体を設けております。

本日、同席しております教育振興部長が委員長、私が副委員長ということで、関係課長を構成メンバーとして、区長部局からは企画課長や文化・生涯学習課長も入りました会議体で進めていくこととしております。

予定としましては、来年2月に区民意見反映制度、いわゆるパブリックコメントをいただく形で、素案の策定をこれからしていくところでございます。

2月になりましたら、委員の皆様目のとまる形で、また、ご意見をいただくような形にもなるかと存じます。

今年度いっぱい、来年の3月までに（仮称）図書館ビジョンということでまとめまして、公表していきたいと考えています。また、平成25年度から反映できるものについては、早速実施してまいりたいと、このように考えているところでございます。

座長

ありがとうございました。

それでは、最後に事務局から何かございますでしょうか。

事務局

委員の皆様には大変恐縮でございますが、懇談会終了後、事務連絡および教育長への答申がありますので、お席にてお待ちいただきますようお願い申し上げます。

座長

それでは、委員の皆様には懇談会終了後、お席にてお待ちいただきたいと存じます。

本日で全5回の当懇談会が終了ということでございまして、私の方から一言ご挨拶を

申し上げたいと思います。

本当に、皆様方のお力添えを賜りまして、本日、無事に答申文を決定する運びになり、皆様方には厚く御礼申し上げます。正直なところ、ほっとしております。

この会は、今回もそうですが、非常に皆様方の熱心な白熱した議論を毎回展開しまして、座長である私としましては、いつも時計とにらめっこをしながら皆様方の意見をまとめてまいりました。

私自身は、ふだん何気なく公共図書館を使っておりますので、この会議を通して、地域と公共図書館とのかかわり、それから小中学校図書館のあり方についてであるとか、さまざまな立場の方がどのように図書館を利用されるのかであるとか、私の方が皆様方から教えていただくことがたくさんあったように思っております。

そういう点でいうと、この懇談会を通して、図書館というのは万華鏡だなど、一つ角度を変えると形が変わってくる、使い方、見え方が変わってくるものだなというふうに思いました。

長いようで短かった5回の懇談会も本日で終了ということでございます。この5回の懇談会を支えていただきました副座長を初めとしまして、各委員の皆様方、そして、さまざまなお力を賜りました事務局の皆様方に、心より御礼申し上げたいと思います。本当にどうもありがとうございました。

<拍手>

副座長からも、一言挨拶をお願いいたします。

副座長

この案を拝見しますと、サポーターズ組織について意見を述べられている方がたくさんいらして、形が見えそうな、何か生まれそうな、すごい期待感を持って終了できまして、春を待つような気でまとめられたことを大変嬉しく思っています。皆様、ご協力ありがとうございました。

<拍手>

座長

ありがとうございました。

以上をもちまして、第5回これからの図書館サービスのあり方懇談会を終了いたします。傍聴されている方におかれましては、ご退室をお願いいたします。

皆様、どうもありがとうございました。